

1、本園の教育目標

キリスト教精神を土台とした人間教育を目的としており、乳幼児期における健全な心身、宗教的情操、隣人愛等の育成に重点をおいている

- 1、生涯の土台作りのために、いろいろな実際体験を保育に取り入れる。
- 2、一人ひとりの人格を大切にし、心の行き届いた保育をする。
- 3、豊かな心、信頼の心、感謝の心、意欲的な心の土台を育てる。
- 4、神様からいただいた身体を大切にすることを育てる。
- 5、友だちと共に生活することに喜びを持つ心を育てる。
- 6、自分からあそびに取り組んだり、自主的に活動できるように援助する。
- 7、家庭と園の協力を大切にし、保護者と保育教諭が協力しあう。

2、本年度重点的に取り組む目標・計画

- ①キリスト教保育の指針に基づき、神様からいただいた自分の身体を大切にすることができるようになるために、引き続き乳幼児の心身の育ちを豊かに守っていくための保育者の関わりを学んでいく。
- ②子どもの人格や権利を尊重し、大人と子どもの情緒的結びつきを深め、より良い関係を生み出すための保育者の関わりを学び、日頃の保育に取り入れる。（子どもに語りかけることばや大人の行為、ふるまい等）
- ③子ども一人ひとりの多様性を理解、尊重しながら、一人ひとりがどのような援助をし必要としているかを把握し生活上の困り感を改善できるような関わりをし、子どもが自己肯定感を高め、生活をしていくためには、どのような取り組みや環境作りが必要であるかを、特別支援教育の立場から学んだことを実践する。
- ④キリスト教保育指針【2024年版】を学び共有する。

3、評価によりみえてきた主な課題とその取り組み方法

評価項目	努力点・改善点	具体的な取り組み方法
乳幼児理解	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教の精神で一人ひとりの子ども達の成長過程を理解、把握し、個々の違いを尊重し、丁寧な保育を行おうと園全体で取り組んだ。子どもが安心して生活できるように、子どもに寄り添う丁寧な言葉かけや表情等、確認しあってきた。しかし、保育者一人ひとりの子ども理解や認識の違いがあり、子どもへの言葉かけや対応の仕方に個人差が生じていることがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人格、権利を尊重した保育を行うためには、保育者自身の余裕や心がけが必要である。しかし、それだけではなく、乳幼児の心身の成長過程を知り、心理を理解できているかが基本となり、そのことが大人の行動、保育観に繋がっている。子ども一人ひとりに適した大人の言葉かけや関わりが、本心に子どもの権利を守り、人格を尊重する関りができているのか、互いに意識し合い、気付き合いながら、保育にあたりたいと考えている。子どもの年齢に応じた子ども理解も必要となるので、学年ごとに子ども理解を深める学びを取り入れていきたい。
資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度は、対面式で様々な人との出会い、その中で会話が弾む研修に参加できた。また、ウェブでの研修もあり、時間を見つけて多くの職員が同じ研修を受け、共有することができ有効だった。 ・研修で学んだことが、実際の保育に、活かされて、子ども達があそぶ環境構成が充実し、子ども達が選んであそぶことができる環境が整えられた。食育に関しても、栄養士との関わりも深められ、保育の中で栄養指導をしていただいたり、食への関心ももてるような話を子ども達にしていたいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年度も専門性を高めるための研修に積極的に参加し、職員全体で取り組めるようにする。 ・基本に返り、乳幼児の理解を深めていく。そして、園に集められた子ども達が一人ひとりの個性を認められ、愛されて、安心して生活していける様、子どもに関わる全ての職員で学びを深めていく。 ・月に1回、牧師による聖書の学びを通して、聖書に触れ、神様のメッセージを聴き、自分自身の感性の幅を広げるものとしていきたい。 ・保育者自身が神様のお話の理解を深め、子どもの礼拝時の話に保育者の感性が表現されるような豊かな礼拝を目指したい。
保育計画・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・週案で活動内容や子どもの様子を伝えあうことができたので、時間を有効に使い準備することができた。 ・コロナが第5類感染症に移行してから保護者参加の行事は人数制限をせずに感染予防対策の上実施でき、子どもの成長を見ていただくことができた。 ・実体験を大切にし、活動できた。 ・4.5歳児では神様が作ってくださった世界の事を考え、SDGsに関心を持ち私たちができることを具体的に考える保育ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に引き続き、月1回の職員会、週案作成、リスクマネジメント委員会、給食委員会などの必要性の高い会議は、確実に行うことができ、情報も共有できた。学年の話し合いについては以上児クラス、未満児クラス共に、計画し、時間の確保ができたので、今後も続けていく。 ・コドモンを通して、子どもの成長が伝わるよう続けていく ・子どもたちと、食することの大切さや、命の教育に繋がる経験が持てるよう努力していく。（獣医による食育の話） ・引き続き環境教育を取り入れ、神様が作ってくださった地球を守るために、私たちができることを考え、体験していく（大人がSDGsに関心を持ち、生活する）
保護者 地域連携 子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・今年は、園内に保護者が自由に入出入りできるようになり、保護者参加の行事も制限人数を増やし実施できた。 ・コドモンを利用し、子どもの様子を伝えていった。 ・小学校、中学校との交流は5年生とのふれあいや、職場体験も再開し実施できた。 ・子育て支援（サークルドレミ）については、予約制にし、月2回の頻度で実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に子どもたちの成長をまじかに見ていただくことの大切さを感じたので、今後も子どもの成長のために、情報の発信をしていく工夫をし、園と保護者が同じ方向を向き、安心して子育てができるような関係性を築いていきたい。 ・情報の発信も必要だが、保護者と担任が直接会って会話をすることを大切にして信頼関係を築いていきたい。 ・子育て支援においては、地域で子育てをしている母親の居場所となり、安心して相談できる場所となるよう、引き続き努力して実施する。

職員間のコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 職員会、リーダー会、学年の話し合い等定期的に計画をし実施できた。パートの職員の参加により学年の職員間の情報共有ができた。話し合いの内容の見える化に心掛けた。 報告、連絡、相談の大切さは、常に職員で共有し、確認し合った。 休憩室の整備を行った。職員の休憩時間を確保できるよう、各学年で工夫した。休憩室ができたことで、子どもと離れる時間を持ちリフレッシュしやすくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員のコミュニケーションを図るため、情報の見える化に取り組み、情報が伝わりやすく皆が共有することができた。良い関係性ができてきたので、引き続き実施していく。 小さなことでも、報告・連絡・相談を確実にし、解決策を見出し、迅速に対応していけるように職員間で確認し合う。 小さなことでも伝えあえる関係性を育むためには、職員同士の普段からのコミュニケーションを大切にしていく。 職員間の親睦を深めるため、引き続き、皆が参加できるようなレクリエーションを工夫し、リフレッシュできる交流を図っていきたい。
---------------	---	---

4、総合的な評価結果

本年度5月まで新型コロナウイルス感染拡大防止のため、保護者の理解を得ながら、園独自の感染予防対策の基準に従って行事を実施したり、園敷地内入場制限を行ってきた結果、保護者とのコミュニケーションが取りづらい状況となり、園や子どもの様子が保護者に伝わりにくい状況となっていた。しかし、5月よりコロナ感染症が第5類に移行した後は、園内の立ち入りの制限がなくなり、園内の様子、園の取り組み、子どもたちの園生活の様子を伝える機会が増え、安心して子ども達を預けることができたという意見を保護者から多くいただいた。

また、保育者もマスク無しで子どもたちに表情を見せながら保育ができること、クラス閉鎖等の措置をとらなくても済むようになったことで、安心して保育に携わることができるようになった。引き続き、感染症予防のための環境作りをして、子ども達の健康を守っていきたい。

保護者連絡ツールの「コドモン」の機能を利用して、保護者への連絡方法や子どもの様子の発信も心掛けたところ、保護者には子ども達の様子がリアルタイムで伝わり、保護者とのコミュニケーションの向上に繋がった。

当園が大切にしていることは何なのか、子ども達一人ひとりにどのような関わりをして、「神様の愛」を伝えていくのか、「あなたは大切な存在」「宝物」なのだと伝えていくのかという観点で個人差が見受けられた。そこで、2024年度は基本に立ち回りキリスト教の理念に基づいた保育とはどういう保育であるのかを園全体で確認し合う1年としたい。『皆同じように神様に愛されている存在として、一人ひとりを理解し、肯定的に、丁寧に関わっていく』を皆で再確認して歩みたい。

5、今後の取り組むべき課題(昨年度に引き続き取り組む)

課題	取り組み方法
キリスト教保育に基づき、丁寧で適切な保育とは何かを確認し合いながら実践する	子どもの人格や権利を尊重し、大人と子どもの情緒的結びつきを深め、より良い関係を生み出すための保育者の関りを学び、日頃の保育に取り入れる。 (キリスト教保育、担当制、あそび、ことば、環境)
子どもの心身の健康作り	大切な乳幼児期をコロナ禍中で成長してきた子ども達がほとんどであることを鑑み、経験不足、体力不足、コミュニケーション不足を補っていくためのカリキュラムを計画し、心身ともに健康な子ども達の成長を援助する。
特別支援の推進と子育て支援の充実	一人ひとりの子どもの多様性や個性を包み込む教育、保育を目指し、保育環境や指導の改善を進める。 子ども、子育て支援の拠点として、地域の子育て中の親子が安心して集うことができる親子の集いの場(サークルドレミ)を提供し、相談等の機能を果たせるように内容を充実させていく。

6、学校関係者の評価

・「神様がいつもみています」という教えは小城幼稚園に在園したことで身に付いたことだと思います。私の家は父(大正10年9回卒)を始め家族全員小城幼稚園に通園させていただきました。キリスト教精神を教えられて生きてきたと思います。新聞には時々幼児への虐待が載っているし、国際紛争で子ども達が生命の危機にさらされています。SDGsに関心を持ち活動し生きていくことがますます大切になると思います。小城ルーテルこども園の教育目標、取り組みは素晴らしいです。先生方はもちろん保護者にも研修の機会を広げてもらいたいと思います。(理事 小柳氏)

・園の教育目標や重点的に取り組む目標・計画に基づいた活動や、課題への取り組みが十分になされていると感じます。・乳幼児理解の課題として挙げられている「子どもの年齢に応じた子どもの理解について」は家庭や個人で差があるのは当然ですが、保護者向けの勉強会も実施できるといいと思います。職員間でのコミュニケーションの場が多く、情報共有の為に色々な工夫をされていることが何れも素晴らしいと感じます。(評議員 坂根氏)

・先生方のお働きに感謝しています。先生方の勤務時間等は守られているでしょうか？勤務時間が守られているとしても、こども園の先生方は持ち帰りの仕事が出ることも多いと思うので、それが実質的なサービス残業になってしまうようワークバランスの調整が幼児教育現場全体の課題だと思います。(理事 西川氏)

・コロナもあけて、以前のような保育に戻りつつあった1年だったと思います。子どもの成長をより感じてもらえるような発信をしながら保護者との関係性もより良くなっていくことでしょうか。保育者も人数が多くなるとなかなか共有しにくいこともあると思いますが、園全体で学びを深めておられるようですので、大切な保育の思いがより浸透し共有できていくと思います。(評議員 佐々木氏)

7、財務状況

公認会計士監査により、園の運営、財務管理は適正に行われていると認められています。
(公認会計士 藤崎 武 公認会計士 坂田 達哉)

監事 広渡 純子
監事 山本 康徳

